

第八号

風 知 草



《発行》新津西部コミュニティ推進協議会

《発行日》平成24年 2月 4日

乾電池不用手回し充電で4つの機能

- ・携帯電話充電
- ・LEDライト
- ・非常用サイレン
- ・ラジオ

防災シリーズ パートII

つれづれ

野田総理は、自分を「どじょう」に擬えた。懐かしい名に、昭和二十年代まで行われた「どじょうを獲る方法」の幾つかを思い出した。

小学生の「半月網」漁法。
一・五m程の竹を火で温めながら半円にして、真っ直ぐな竹と繋ぎ網を張る。半円形の方を底に沈めて、上手二m程追っては網を引き上げる。

中学生から「長網」漁法が出来る。幅六十cm、長さ一・五mの網二枚の先端に、一m程の竹を結ぶ。その竹が川幅に開くところから二枚の網を縫い合わせ、その先に目の細かい網を三十cm程足し、最後は縄を縛る。二十数mの川上から「追い込み棒」で追い込める。

「つづら漁法」。夕方、田圃の間の水の流れ口に竹で編んだ「つづら」漬け、朝に引き上げる。田圃の水の流れ、生育中の稲の水位を熟知した「青年団員」しか出来ない漁法だ。

しかし、三十年代になると「強い農薬」や「除草剤」の散布でどじょうもいなくなり、全ての漁法も消滅してしまっ
た。(J・K)

楽しかったよ!

フロアーカーリング大会



性格が出るかも…

いがらし ちさこ

「初めての競技で、いきなり大会に参加かぁ〜」ドキドキしながら到着した体育館では、老若男女たくさんの方の選手たちが練習を始めていた。

戸惑う間もなく大会は進行していき、あっという間に自分の番がきていた。

ターゲットという目印のコマに向けてフロッカーという手持ちのコマを滑らせて、最も近い所で止める競技だ。

一投目。「案外いけるかも〜」と思いつながら投げてみて、途端に現実を知ることとなった。「あちゃ〜」。何度やっ

ても、フロッカーの行き先は運まかせのまま。でもたまにまくれが起ることもあって、初心者でも十分に楽しめた。上級者の技をみて「あんな風にできたらなぁ〜」と夢も膨んだ。

対戦相手の子どもたちには大いに褒められ、味方には謝りっぱなし。でもその声の掛け合いが楽しかった。

初めての人、競技との出会いの場を作ってくれた体育指導員の皆様に感謝です。



ノー・ド・ドロップ バトンの輝きと笑顔と

前田悠太郎

私たち新潟MBAは県内に六つの教室があり、新津教室は、三歳から中学三年生までの男女十五名で活動しています。バトントワリングとは銀色の棒を回す技術ですが、舞踏的・体育的なものから芸術的なものまで、その表現は様々です。

レッスンは、ボディアワーク、バレエの基礎からバトン技術まで幅広く学びます。二百五十種以上もあるトワールを習得する段階ではつまづくこともありますが、仲間と支え合ってその壁を乗り越えます。

個人競技では難しい技にもチャレンジし、チームでは心を合わせて表現します。目標はノー・ドロップ。バトンの輝きにも負けない笑顔です。



み～んな～集まれ～

西部地区では、いろいろなサークルや団体が活動しています。シリーズ4回目は、バトントワリングとレクダンスです。



「レクダンス」

美幸町「綾の会」

岡元 礼子

レクダンス綾の会・夜の部は毎週火曜日美幸町会館で二十六名の会員がレクダンスを楽しんでいます。

温かくユーモアたっぷりに御指導して下さいる白井潤子先生のダンスとコスチュームのセンスはバツグンで、全会員の憧れの的です。

毎年美幸町盆踊り大会や敬老会でダンスを披露させていただきます。地域の方々との交流の輪も広がっています。

とにかくレクダンスが大好き、綾の会が大好き。雨が降ろうが雪が降ろうが、さっさと夕食の後かたづけをして、夜道を通って行く私達なのです。

楽しいレクダンス

美幸町「レクみゆき」

坂口 洋

美幸町会館でレクダンスを始めた「レクみゆき」は、もう七年になりました。会員の多くの方が後期高齢者となりましたが、年齢はそっこのけ、和気藹々と色々な曲に合わせて楽しく踊っています。

練習が待ち遠しく、「全部忘れていいよ」という先生の言葉を信じきってほんとうに忘れ、毎回がいつも新曲です。一曲踊り終える度に、よく動かれたと自己満足の拍手をして盛り上がっています。

また、月二回のお茶の一時があります。お茶菓子をつまみながらお喋りに花を咲かせています。

忘年会・暑気払いなどの昼食会も楽しみの一つです。



美善町内会会館建設について

副会長 山口 貴史

美善町内会は、美幸町の北側に位置し、平成二十一年に誕生した新しい町内会です。

若い家族が多く、役員も仕事の合間をぬって「出来ることからはじめよう」という気持ちで、町内清掃や植樹会などを企画し、小さなことからですが、地域のコミュニティづくりの一助となるよう活動しています。

町内会の設立から三年が経過し、世帯数も二百世帯を超



建設予定地

えました。みんなが気軽に集まれる場所が必要だということ、町内会館の建設に向けて、役員や班長、地域PTA役員が集まり、設計会社と何回も打合せを重ねてプランをまとめました。
プランについては、町内会総会で承認され、今後、市から補助金の交付が決定すれば、建設工事に着手する予定となっています。

編集 後記



バトンタッチ No.7



日頃の出来事や思うこと等を紹介しながら、地域の皆様の“つながりの輪”をひろげていくコーナーです。

初冬、一瞬の輝き

古田二丁目 石津 雅幸

冬場になり日の出が遅くなること、出勤する車から日の出を見る事ができます。十一月の下旬、曇り空ではありませんが、秋葉山の稜線にすばらしい朝焼けを見る事ができました。夜明け空の明と暗、山肌の果さと中腹にたなびく霧の白さが混在し一体となり、自然の迫力を私に感じさせました。
前方に注意しながらちらりちらりとその朝焼けを見ていたのですが、その変化の激しいこと。雲の流れの速さ、登り行く太陽の速さ、そして私の車の方向が変わっていく事があいて、刻一刻と激しく変化するさまに

大変驚きました。黒い雲間に強烈な一点の陽光を見て大きな感動を覚えた次第です。わずか数十秒程の景色の移り変わりではありましたが、心に刻まれた光景となりました。
この時、再確認したことは「一瞬の重み、積み重ね」ということでした。極めて当たり前のことではありますが、日常を無為に過ごさない、今日一日、またこれからも仕事に生活にがんばろうと思った朝の二時までした。
寒さに負けそうになりながらの毎日に「湯」を入れてくれた朝のひと時に感謝！
次号は 山谷町三丁目 杉野功さんへバトンタッチします。

三・一一東日本大震災が有り第七号では防災について取り上げました。「自助」「共助」「公助」それぞれの家庭で考えなければいけない事。隣近所・組単位・町内会単位で進めなければいけない事。行政に担ってもらわなければならぬ事。思い起こせば、阪神淡路大震災直後によく言われました。「地域のつながりが大切だ。」多くの家が倒壊し、その下敷きになった人たちが、電話が通じない。道路が寸断

新津西部コミュニティ推進協議会の活動は新潟市からの補助金を受けています。

され救急車が現場に来る事が出来ない。そんな中で多くの人命が回りの人たちの力によって救い出されました。その数は救急隊や自衛隊によって救い出された人の数よりはるかに多かったです。これは地域のコミュニティがいかに大切かということだと思えます。そんな思いで第八号を皆様にお届けします。

連絡先・事務局 (山谷町三丁目三八一-一〇 連沼美宣)
☎〇二五〇一三二一四二八二